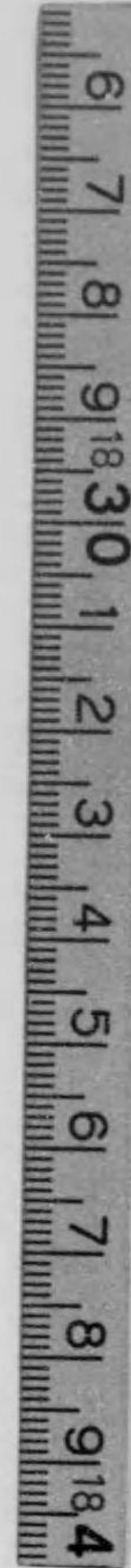


大正十一年

廣島縣氣象年報

顯著記事

大正十一年氣象總概
三月二十日の烈風
七月二日より五日に亘れる豪雨
低温なりし一月
高温多雨多濕なりし二月
六月八日の降雹
よく照つた六月
稀有の多雨だつた七月
稀有の高温寡雨多照だつた八月
四月二十六日の地震
五月十九日の地震
所謂厄日頃の暴風に就いて



始



14
142



廣島縣氣象年報

本報は大正十一年中本所並に郡市役所町村役場及び篤志家の觀測したる氣象要素を編輯したるものにして顯著事項に關しては其概況を記述した。而して一般事業との關係調査の資料たらんことを期する。

大正十三年七月

廣島縣廣島測候所

大正
14. 4 20
丙午

大正十一年廣島縣氣象年報目次

第一章 氣象概況

總 概	頁
顯著暴風雨並に豪雨	3
1. 二月二十四日の強風	3
2. 三月二十日の烈風	3
3. 三月二十三日の強風	4
4. 四月十七日の強風	4
5. 四月二十四日の豪雨	5
6. 六月二十五日の豪雨	5
7. 七月二日より五日に亘れる豪雨	6
8. 七月八九日の豪雨	8
9. 七月二十六日の豪雨	9
10. 九月六七日の豪雨	10
11. 十月六日の豪雨	11
12及13. 十二月十日及び十一日の強風	12
14. 十二月十五日の強風	12
顯著事項	13
1. 低温なりし一月	13
2. 高温多雨多湿なりし二月	13
3. 四月の高温	14
4. 高温寡雨なりし五月	14
5. 六月八日の降雪	14
6. よく照つた六月	15
7. 稀有の多雨だつた七月	15
8. 稀有の高温寡雨多照だつた八月	16
梅雨期の天候	16
霜雪の季節	16
地震	17
1. 一月一日の地震	17
2. 一月二日の地震	17
3. 一月三日の地震	17
4. 一月七日の地震	17
5. 一月十三日の地震	17
6. 一月十五日の地震	17
7. 三月三日の地震	18
8. 三月十日の地震	18
9. 三月十五日の地震	18
10. 三月十七日の地震	18
11. 四月四日の地震	18
12. 四月二十六日の地震	18
13. 五月十九日の地震	18
14. 七月四日の地震	18
15. 七月十二日の地震	18
16. 八月九日の地震	18
17及18. 八月十九日の地震	19
19. 八月二十日の地震	19
20. 十二月八日の地震	19

第二章 廣島の氣象

概 況19—21

— 氣壓 — 風 — 氣温 — 氣温 — 蒸發 — 降水 — 雲量 — 日照 —

— 地温 — 井水温 — 天氣日數 — 霜雪 — 地震 —

所謂厄日頃の暴風に就いて...中村勝次... ..22—24

氣象表

氣象概覽	1
氣壓の平均	2
氣温の平均	2
水蒸氣張力の平均	3
湿度の平均	3
降水量	4
降水觀測回数	4
日照時數並に不照日數	5
地面並に地中温度の平均	5
雲量の平均	6

凡 例

- 廣島の氣象觀測成績は毎時觀測のものにして管内觀測所の成績は主として十時の觀測に係る。
- 氣壓、水蒸氣の張力、降水量及蒸發量は ミリメートル (一耗は我が三厘三毛) を以て示し飽差は グラム を以て示す。
- 氣温、地温等は總て攝氏の度を用ふ。
- 湿度は百分率にて示す。即ち水蒸氣にて飽和せるを百とし、全く水蒸氣を含まざるを零とす
- 雲量は満天雲にて蔽れたるを十とし碧空の晴れ渡れるを零とし十分率にて示す。
- 風向は測候所の分は十六方位にて其他の觀測所の分は八方位にて示す。而してNは北、Eは東、Sは南、Wは西である。さればNNEは北々東WSW西南西のこである。風速度は風が一秒時間に經過する平均行程を 米 (一米は我が三尺三寸) にて示す。
- 天氣類別日數中降水と雨雪霰霰等の降りたる量が〇耗以上ありたる日、快晴とは一日の平均雲量二、〇より少きを曇天と八、〇以上なるを云ふ。暴風とは二十分間の平均風速度十米/秒以上なりし日(測候所以外の觀測所にては風力強風以上の日)を云ふ。其他の天氣にありては其現象のありたる日を算した。
- 統計表中に?を附したるは精算上不明の點あるを示す。
- 廣島測候所は東經百三十二度二十七分北緯三十四度二十三分に位し平均海面上一米七にある
- 晴雨計海面上の高さは三米二、風力計地上の高さは九米である。氣温を觀測する寒暖計は百葉箱内に懸吊し地上一米二の高さにあり。雨量計及蒸發計は地上〇米三の高さに据えてある
- 海面上の氣壓を知らんには〇耗四二を引くがよい。
- 時刻は二十四時制に據る。即ち午前午後を冠せずして午前零時午前十一時等は單に零時十一時等とし正午は十二時午後一時は十三時午後九時は二十一時夜半は二十四時とする。

風速度の平均	6
風向観測回数並に平均風向	7
方向別平均風速度	7
方向別最強風速度	7
方向別暴風時數	8
暴風日數	8
量別降水日數	8
五日以上引續きて降水を見たる日數	8
十日以上引續きて降水を見ざりし日數	8
日々平均気温の差	9
気温度別昇降回数	9
草上の最低温度並に最低気温及ばざる度	9
気温類別日數	9
上層雲の方向及其回数	9
井水温度	9
雜項	9

管内の氣象

気温の平均	10
気温の高極	10
気温の低極	11
最高気温の平均	11
最低気温の平均	12
降水量	13
降水最大日量	14
降水日數	15
降雪日數	16
霜日數	17
暴風日數	18
雷日數	19
霧日數	20
快晴日數	21
晴天日數	22
曇天日數	23
最多風向	24
地震回数	25
霜雪の季節	26
地震總覽	27—28
管内氣象観測所一覽表	29

廣島縣氣象年報

大正十一年

第一章 氣象概況

總 概

本年は猛烈な颱風の襲來を受けたことは一回もなかつたが天候の偏り甚しく二月の多雨と挿秧期に於る寡雨と、七月上旬の多雨と八月の高温早魃とは其の最も著しいものである。今月を遂うて其梗概を述べよう。

一月 氣壓が高く寒氣凛烈にして快晴の日は一日もなく天氣悪く降水日數、曇天日數、降雪日數、雪日數は斯月としては稀有の多數を示し日照時數は一月としては既往の最少なる明治三十年に亞いで少いものであつた。月の前半には雙三比婆の北部では頻繁に地震を感じた。

二月 極めて温暖濕潤であつたので雪も霜も非常に少なく降水量は斯月としては未曾有の多量をはかり降水時量の最大の新記録を作つた。不照日數も是迄にない多數で天候は悪かつた。梅花の咲き初めは遅かつたが満開期は例年と差はなかつた。

三月 天氣の變動激しく寒暖交々驟り降雨頻繁であつた。そして十九日に黃河流域に現はれ東進して二十日朝日本海に入つた低氣壓は大に發達したことで廣島では同日十四時に西南西風十六米/秒四の烈風吹くに至つた。これは本年中の最大風速度である。平均気温は二月に同じく最低気温の平均は二月よりも却つて低かつた。雪は二十五日に、霜は二十九日に終を告げた。二十日に初雷を聞いたが初雷としては早い方である。

四月 高温であつた。殊に二十七日には早くも最高気温は二十五度を超わつた。かかる事は稀なことである。これは高氣壓が南海岸沖を占むるに至つたからである。雨は寡かつたが二十四日には六時より七時迄に二十耗八(此時西の突風九米/秒八吹いた。)を量り斯月の最大時量としては明治二十三年四月二十日の二十一耗五に亞ぐ大なるものであつた。然し日照盛にして湿度少く天候は良好であつた。

五月 平均気温は著しく高く斯月としての最高の記録を作つた。雨天日数は平年と殆んど差はなかつたが雨量は稀有の少量であつた。曇天日数は多かつたが日照時数も多かつた。それで天候はまづ良好の方であつた。

六月 気温高く且變化に富み其一日の較差の月平均並に最大の大であつたことは斯月としては未曾有のことであつた。十五日に至り氣壓の配布状態が梅雨期の状態を示したが雨量が少なくなかつたので挿秧が大變遅れ二十五日の降雨にて初めて愁眉を開いた。雨量雨天日數及濕度は六月としては稀有の少數を示し日照の盛んなりしことは斯月として新記録を作り天候はなかなか良好であつた。

七月 上旬には連日降雨ししかも豪雨屢々臻つたので前月迄で寡雨を啣ちし人々も雨の霽れるを只管祈るに至つた。梅雨は十日に霽れ茲に天候は恢復したが下旬に四日間雨降つた。月雨量は稀有の多量で第三位を占むるに至つた。しかも月總量の八割は上旬に降つた。その筈である上旬には日雨量五十耗以上だつた日が五日。百耗降つた日が一日あつたのである。又下旬に一日五十耗以上降つた日が一日あつたので日雨量五十耗以上だつた日は六日を算するに至つたが、これは何れの月にも未だ曾てない事である。濕度の平均は著しく大で斯月としては第五位となつた。天候は良好といふ程ではなかつたが其經過は寧ろ良い方であつた。

八月 前月の反動とも思はれる程の寡雨で雨量は極めて少く斯月としては少量の新記録を作つた。又雨天日數も少く明治二十三年と共に少數の第一位を占むるに至つた。気温の平均は未曾有の高温を示し暑氣甚しく最高極は十五日十四時に37.7度に上り既往の高極なる大正三年八月十二日の37.8度に比し僅かに0.1度低かつたに過ぎない。又日照の盛んだつた事は斯月として是迄に其例を見ず雲量は稀有の少量を示し旱天打續き農作物の旱害を被りしものも多少あり雨乞の焚火をする地方もあつたが適順の經過であつた。

九月 三日から雨降出し連日霽れなかつたので一時悲觀する者さへ出たが中旬には好晴となり秋分に至つた。秋分以後は再び陰曇となり連日降雨した。氣壓の平均の高かつた事は斯月としての記録を作り平均気温は著しく高く濕潤ではあつたが雨量は平年と大差なく天候は悪い方ではなかつた。

十月 最高気温の平均の高かつたことは斯月としては第五位となつたが日較差の平均の著るしく大であつた事は大正九年と同度で明治二十四年に亞ぎ又月中の気温高極と低極との差の大であつた事は明治十六年及び大正四年の各24.6度に亞

ぐに至つた。そして日照は盛んにして天候は良好であつた。

十一月 稍低温で早く寒くなり十一日に初霜を。二十六日に初雪を見た。雪日數は二日を算し明治三十七年と同數で斯月としては同二十四年及び二十五年の各三日に亞ぐ多數であつた。気温の較差の平均は著しく大であつた。天候は良好の方であつた。

十二月 寒冷で気温の較差の平均は可成り大であつた。五日には一時著しく寒氣加はつたに反し二十八日には早春の様な暖かさを覺わした。降水日數は平年より僅かに少なくなつただけだが降水量は著るしく少なく大氣は乾燥し日照時數多く天候はます良好といふ方であつた。

顯著暴風雨並に豪雨

1 二月二十四日の強風 二十三日揚子江中流域に現はれた颶風は東北東へ進行し二十四日日本西海中朝朝鮮海峽を通過し日本海に入り北東へ進み二十五日北海道北部を横ぎりオホーツク海へ去りたるが北海道に近づきたる頃には七百四十耗以下となつた。これがため九州四國本洲南鮮等では暴風雨北海道は暴風雨雪、北鮮樺太、等では暴風雪を惹起し被害を見た所がある。廣島では二十四日九時より氣壓の下降著しくなり十九時には最低(七百五十二耗九)に達した風は同日十時迄では北東であつたが十二時より十四時迄では南々西若くは南西の軟風十五時より十八時迄は一米/秒内外なりしが十八時過より頗る強くなり十九時には最大(南々西風十三米/秒-)に達した。其後弱くなつたがそれでも時々強くなり二十一時には南風二十四時には西風二十五日三時には西南西風の疾風となつた。雨は十四時三十分より降り出し十七時二十五分一旦歇んだが十八時二十五分より復た降た降り出し十九時三十分より十分間は雨勢強烈となつたが二十時五十五分には全く歇んだ此雨量二十四耗六で十九時より二十時迄の一時間に十一耗七降つた。

2 三月二十日の烈風 十九日午前黄河下流域に現はれたる颶風は午後黄河に入り同夜朝鮮中部を横斷して二十日六時には日本海西部に來り同日北東へ進行しつゝ大に發達し二十一日北海道西方海上より東北東へ北海道を横斷して二十二日千島へ去つた。此颶風は北海道に接近したる頃には著しく發達し七百三十六耗となり全國に暴風雨雪を惹起し被害を醸した。廣島では十九日夜より氣壓下降し二十日十二時及び十三時に最も低く七百五十五耗に下つた。風は二十日六時迄では北々東風弱かつたが七時に東の軟風となり七時過より急に風力増大し八時には南西

疾風となり九時には一時西南西の和風となつたが十時西乃至南西の疾風となり十三時には西の強風となり十四時には最も強よく西南西風十六米/秒四に達したが十六時より疾風に落ち二十一日二時頃には十米/秒に垂んとせしが三時には和風となり(八時より十時迄は疾風だつた)十八時より軟風となつた。雨は二十日七時九分より降始め八時二十二分歇んだ。此雨量三耗。七時三十二分には南西で電雷あり其後十一時七分に微雨降つたがすぐ止んだ又二十三時三十分より三分間微雨あつたが量をはかる程なかつた。

3 三月二十三日の強風 二十二日山東省に現はれた颶風は二十四日には黄海東部より南朝鮮を横ぎり日本海南部を経て同夜は本洲中部關東を横ぎり二十四日鹿島灘の東方洋上へ去つた。此颶風は朝鮮に來た頃支那大陸にて高氣壓が急速に發達したため其後方にては氣壓傾度著るしく大となつた又關東に來た頃に最も發達し中心附近では七百四十二耗に下つたそれで南朝鮮島根縣等では被害現はるゝに至つた廣島では二十三日未明より氣壓下降し十時より十一時の間、十二時より十三時の間には二耗以上十三時より十四時の間には三耗以上も低下し十五時に最低(七百五十三耗)となつた。風は二十三日には八時迄では北々東の軟風が多かつたが十時南風となり十一時西に轉じ十三時には風弱くなりしが十四時過より西の風強くなり十七時には疾風、十八時には強風となり同二十分最大、西風十二米/秒二に達した。十九時後は十米/秒内外となつたが二十二時より再び風勢募り同二十分には西風十二米/秒一に上つたが二十三時以後疾風となり翌日二時より和風となり四時より軟風となつた。雨は十四時四十分より降り出し十五時五十分より八分間強かつたが十六時四十四分一旦歇んだ。此雨量五耗三。十九時五十八分より七分間微雨あつたが少量で計るに足らなかつた。翌二十四日には〇時十九分より微雨降り全二十五分霽となり五時五十八分より雪となつた

4 四月十七日の強風 十六日渤海に現はれた颶風は南東へ進行し同夜南朝鮮を通過し十七日六時には日本海南西隅に來り夫れより山陰沖を東進し本洲中部關東を横ぎり十八日太平洋へ去つた。此颶風は山陰沖を進行しつゝ可成り發達し其中心附近に雷を伴ふた。そして九州以東關東に至る地方に風力の増大を誘致した。廣島では氣壓は十六日より下降し十七日十時に最低七百五十六耗六に下つた。風は十七日には八時迄では北々東風弱かつたが九時には北の軟風十時には南々西に轉じなは軟風であつたが十時過より急に風勢募り十一時には西風九米/秒二となつたそ

そして十二時には北東の軟風に落ちたが十二時過より風向北西寄りとなり風力増大し十三時には疾風となり十四時には最も強よく北西風十米/秒九に達した。十五には尙強風であつたが十六時より和風となり二十時より軟風以下となつた。雨は十七日十時二十分より降り出で十時二十二分より北西方にて雷鳴を聞き同四十八分より暫時電雷となり全五十八分より四分間は電が雨にまじりて降つた。雷は十一時に收聲し雨は斷續し十七時十三分に全く止んだ。其雨量一耗一

5 四月二十四日の豪雨 二十三日朝江蘇省の海岸にあつた。低氣壓は其夕刻までは殆んど滞留して居たが同夜東進して二十四日朝は朝鮮海峽に來たが其頃には大に發達して七百四十耗に低下しそれより日本海を北東進し同日夕刻日本海中部に到り二十五日午後より漸次衰へ同夜北海道に達した頃は前日の勢力は全くなつた。二十六日オホーツク海へ去つた。これがため全國暴風雨に襲はれた。廣島では二十三日午前より氣壓下降し同夜は一時間に一耗以上の下降を見た二十四日六時に最低(七百四十五耗一)に達した。其後氣壓の上昇遅く二十五日六時までには二十四時を除く外は七百五十耗以下であつた。風は二十四日には五時迄は無風状態であつたが六時には辛じて軟風となり六時過より俄然風勢募り七時には最強(西風九米/秒八)に達した。然るに八時には大に衰へ南々西の和風となり九時には静穩となつたが十時には和風となり十時過よりは南乃至南西の疾風強く十五時に至り十六時より翌二十五日宵迄は或は和風となり或は疾風となつた。雨は二十三日二十時五分より降續し二十四日一時四十五分より三十五分間、二時五十分より四時十分間、九時二十五分より三分間、全三十五分より三十分間は雨勢極めて強かつたが十時四十一分に歇んだ。此雨量七十六耗五。其中六時より七時迄での一時間に二十耗八降つた。これ四月の最大日量である。其後十四時五十八分より二十二分間微雨あつた。此雨量〇耗一。二十五日には四時五十分より七時二十分迄、十時八分より十一時三十分迄雨があつた。此雨量〇耗七。今縣下に於て雨量五十耗以上あつた所を列擧すると

津田	耗 87.7	大朝	耗 78.5	中黒瀬	耗 61.6	西條	耗 58.0
加計	83.0	都谷	76.2	油木	63.7	上高野山	50.0
可部	80.0	吳	70.0	井原	62.1		
乃美	80.0	吉和	70.0	神田	61.0		
吉川	79.6	中野	68.7	海田市	60.7		

6 六月二十五日の豪雨 二十四日十八時には本邦附近に數個の低壓(七百五十

耗)あり、二十五日朝には濟州島の南方にありしもの稍發達して七百六十四耗となり東進して同日午後内海を通過し二十六日奥羽中部に到つた頃には七百四十二耗に低下した。そして午後には太平洋に去つた。廣島では二十四日拂曉微雨があつた。(此雨量〇耗三)が其後曇天となつた。二十五日には一時二分より雨降り出で一時三十八分小歇み全四十七分より再び降出し三時五十分歇んだが五時五十六分より降續して二十時三十五分に至つた。又二十一時二十五分より降雨二十三時十五分に歇み全二十二分より又復降り出し翌二十六日十五時十七分まで降續した其後十六時四十分より降雨したが十八時四十分に至つて全く歇んだ。此雨量八十一耗五。其中六十耗六は二十五日に降つた。最大時量は十三時の九耗八である。氣壓は二十一日朝には七百六十耗だつたがそれより徐降し二十五日十四時過より七百五十耗以下となり十八時に最も低く七百四十八耗四に下つた。其後徐々に上昇したが二十六日夜半に至るも七百五十四耗とならなかつた。風は弱く二十五日には十一時の南西風三米/秒五が最も強かつたに過ぎない。

縣下に於いて雨量五十耗以上をはかつた地を列挙すると

高坂	84.8	西條	65.0	廿日市	58.0	市	52.9
津田	78.8	尾道	64.4	府中	57.5	可部	52.8
中黒瀬	75.5	海田市	63.8	乃美	55.5	御野	52.2
吉川	72.8	上瀬野	63.0	神田	55.5	田總	52.1
吳	71.0	小泉	63.0	加計	55.0	朝	50.0
嚴島	70.0	松永	61.4	布野	54.1		
福山	68.5	都谷	60.1	十日市	53.3		

7 七月二日より五日に亘れる豪雨 二日には低氣壓は日本海北部(七四〇耗)と東滿朝鮮の境(七四四耗)とにあつて其他にはこれといふ程のものがなかつたが九州以東關東に至る地方に於て七百五十二耗及七百五十四耗の等壓線が波状を呈して居た。三日朝には九州の西方に副低氣壓發生の兆あり正午には四國沖と内海中部に七五三耗位のもの存在し夕刻には其影をひそめたが其痕跡を九州四國山陽附近に認められた。四日低氣壓は南鮮(七四九耗)日本海(七五〇耗)支那東海南部(七五〇耗)等にあつたがたいしたものではなかつた。然し氣溫の差が九州中國邊に於て著しかつた。これ恐らく此日の豪雨の主因であらう。即ち六時には九州北西部より對馬にかけては二十度以下であつてこの低溫部は十二時にもなほ九州北西岸に残つて居た。しかも其時宮崎では三十度以上となり内海より若狭灣にかけて二十五度以上の高溫部があつたので局部的に驟雨性の大雨を惹起したものとされる

五日六時には九州西部より朝鮮海峡にかけて七百五十四耗の等壓線が南北に波状を呈し七百五十六耗の等壓線は四國より内海東部北陸奥羽北海道東部にかけて是も亦波状を呈し午後は九州四國中國等に於ては風向區々にして隨所に微小な副低氣壓の發生したのを啓示してゐた。此日颯風(七三〇耗)は宮古島に來り北進しつゝあつた。廣島では氣壓は一日より低下し二日九時には最も低く七百五十五耗八(月中の最低)となつた。其後上昇し三日九時には七百五十五耗五となつたがそれより再び下降し十八時には七百五十二耗七の極小現はれ同夜は七百五十三耗を上下し四日より五日にかけて徐々に上昇した。風は一日夜は南西の風稍強く時々疾風となつたが二日八時には最大(南西風十米/秒五)に達したそして九時及十時にはなほ疾風だつたが十一時より和風となり十三時より或は軟風となり或は和風となり二十時後極めて弱くなり三日一時より靜穩となつた。そして十九時より軟風となり二十四時に急に南西風九米/秒三吹いた。然し四日一時には和風となり二時より軟風となり六時より靜穩となり翌五日十時迄に至つた。そして十一時軟風となり十二時に此日の最大(僅に北風二米/秒八)となつたが其後は又復靜穩となつた。雨は二日には九時六分より降り出し十八時五十四分迄で降續したが此間十一時十三分より三分間、同三十分より四十九分間は雨勢極めて強烈で十三時には十六耗七を測つた。此雨量五十二耗四。その後二十一時三十八分より三十分間微雨あつたが測る程の量はなかつた。三日には十二時二十分より降り出し翌四日の十三時三分迄で降續した。そして十三時二十三分より二十一時四十九分迄で斷續。二十二時四十三分より五日十五時十四分迄で降續。十五時五十八分より十八時四十二分迄斷續した。此間三日には十九時五十分より二十二時迄、五日には三時三分より四時前迄は雨勢極めて強烈であつた。それで三日二十一時には二十七耗五、二十二時には二十九耗三(月中の最大時量)を量り三日の日量は百耗に上つた。四日は五十四耗六、最大時量は五時の八耗三。五日は五十一耗二、最大時量は四時の十八耗。それで二日より五日迄の總量は二百五十九耗五となる。今縣下各地に於いて是等の日に五十耗以上をはかつた地を列挙すると

二 日

高坂	66.07	神田	61.6	乃美	58.6	海田市	54.2
忠海	63.2	中黒瀬	61.0	嚴島	58.0	吳	52.5
小泉	62.5	井原	60.4	吉川	55.5	市	52.3

三 日

嚴島	198.0	十日市	82.7	川西	67.3	三 次	59.5
津田	176.7	中黒瀬	82.4	乃美	65.7	海田市	59.0
可部	165.3	本郷	75.8	神田	64.8	吉和	56.0
井原	133.1	君田	72.0	市	63.5	西條	52.0
廿日市	115.0	庄原	70.9	府中	61.5	上瀬野	50.0
吉田	102.0	吉川	70.8	甲山	60.4	久井	50.0
西條	95.0	小泉	68.4	都谷	60.1		
高坂	93.0	忠海	67.3	上高野山	60.0		

四 日

乃美	121.6	市	75.0	吉和	67.0	帝釋	56.5
福山	96.2	加計	74.8	川西	66.0	庄原	54.5
高坂	95.0	府中	74.0	中黒瀬	64.5	海田市	54.2
本郷	85.6	西城	72.0	小國	64.0	井原	54.2
上下	84.2	西條	71.0	都谷	63.0	柄久	54.0
吉川	82.7	甲山	70.2	吳	60.6	久井	53.0
神田	80.0	尾道	70.0	八幡	60.2		
上高野山	78.0	小泉	69.0	津田	59.7		
油木	75.4	中野	68.8	忠海	56.6		

五 日

吳	71.5	松永	59.2	西城	57.0	都谷	52.0
---	------	----	------	----	------	----	------

二日より五日迄四日間に二百耗以上の雨量あつた地は

津田	314.3	高坂	259.3	吳	216.7	小泉	203.8
嚴島	299.0	吉川	229.0	庄原	213.1		
井原	280.9	中黒瀬	228.5	本郷	209.9		
可部	277.9	西城	226.0	吉田	209.0?		
乃美	266.9	神田	217.7	十日市	204.2		

8 七月八九日の豪雨 五日宮古列島を襲ふた颱風(七三〇耗)は六日支那東海を北上し七日朝鮮南東隅を掠めて日本海西部に入り八日には北西進して北鮮に上陸し間島附近に至り九日更に進路を東へ轉じ沿海州の沿岸傳ひに東北東へ進み十日千島へ去つたそして高氣壓は八日には本邦の東方洋上にあり九日南方へ移ると共に南海岸沖へ張出して來た。それで九州、四國、本州は高氣壓と颱風との中間に介在することとなり各地にて降雨があつた。廣島では氣壓は八日は上昇をつまげ二十二日には七百五十八耗となつた。九日は二時が最も低く七百五十六耗二でそ

れより十一時迄で上昇し其後少しく下降したが十六時より再び上昇し二十一時には此日の最高七百五十八耗三に達した風は七日二十時過より南寄りの風強くなり二十一時過より疾風となり二十四時には最も強く九米/秒九(南々西風)に達した。そして八日三時迄ではなほ疾風吹いたが四時より和風となり十時より急に弱く軟風となつた。十五時過より十七時迄は和風となつたが其後衰へて静穩となつた。九日には十時過より和風となり十七時の南風五米/秒一が最も強いものであつた。しかし十八時には軟風となつた雨は七日三時三分より降り始め七時十分迄断續し十時三十分より十八時三十五分迄で降續十八時五十分より二十三時三十分迄で断續した。此雨量二十七耗六。八日には時々小歇んだが大體に於て降續し九日七時二十一分に至つて歇んだ。九日は其後十六時三十六分より又復降り出し十日〇時二十五分迄で断續した。雨量は八日には四十五耗六、九日には五十六耗六あつた。今縣下に於いて此兩日の雨量百耗以上だつた所を列舉すると

津田	190.2	吉和	145.0	可部	129.3	八幡	111.0
----	-------	----	-------	----	-------	----	-------

9 七月二十六日の豪雨 二十三日ラサ島の遙か南方洋上に現はれ北々西へ進行し來りたる颱風(七三〇耗)は二十四日午後奄美大島の南西を通過して支那東海に入り二十五日木浦を掠め二十六日六時朝鮮中部に至り其後分列して一は東北東へ進み日本海に入り一は北西へ進み滿洲西部にて孰れも二十七日に大に衰へた。高氣壓は二十六日にはオホーツク海(七六六耗)より千島に移つた二十六日六時には七百五十八耗の等壓線は九州西部に於いて西方へ癪の如くふくらみ、七百六十耗の等壓線は四國中國東部に於いて鼻口線狀を呈した。そして二十五度の等温線は玄海より九州北西部を包み南下し日向灘を北上し四國を北東へ去り福井を迂回して伊勢灣に下り遠州灘を東へ沼津、小田原より伊豆七島の東方へ曲つて居た。正午には本州には五本の不連續線ありその一は廣島縣を南北に走つてゐた。此時山陰東部は三十度以上となつて居たが廣島は二十五度以下であつた。此の氣温の配布の著しき變調は雷雨を惹起し且これを持續するには詭へ向であつた。廣島では氣壓は二十五日二十三時には七百五十九耗四(此日の最高)であつたがそれより少し下降し二十六日には一時より三時迄で十七時及び十八時に最も低く七百五十九耗一、九時二十二時及二十三時に最も高く七百六十耗一であつたが此間にも小高低が二回あつた。風は三時の南々東風二米/秒七が最大で一時、四時、九時に軟風其

他は静穏であつた。雨は二十五日には二十二耗五あり二十六日には一時五十五分より降始め漸續して十七時三十三分に至る。此雨量七十耗七而して十一時より十二時の間に於いて雨勢強烈にして此一時間に二十三耗九をはかつた。雷は一時五十四分より二時二十六分迄で南西方で鳴り時々電光を伴ふた一旦途切れた雷は十時十四分より再び南西にて鳴り出で十一時七分より十四時三十分迄では電光を伴ひ十五時三十七分北西へ轉じ十八時七分全く收聲した。次に縣下に於いて二十五日二十六日の中一日の雨量五十耗以上あつて兩日の合量七十耗以上若くは一日の雨量四十耗以上あつて兩日の雨量の合計七十耗以上(*印を附す)あつた所を列挙すると

嚴島	195.2	井原	92.7	吉和	82.0	府中	71.2
可部	127.2	加計	90.5	尾道	81.2	松永	70.6*
中黒瀬	117.9	吳	89.3	御野	80.6	本郷	70.1*
津田	98.6	市	88.0	都谷	77.0	吉田	70.0*
吉川	93.0	小泉	84.0	福山	76.7		

10 九月六七日の豪雨 六日高氣壓(七六二耗)は樺太・北海道・三陸沖豆南諸島に亘りて存し七日はオホーツク海千島北海道東方洋上に發達して七六四耗となつた。低氣壓は六日には淺いものが日本海(七五八耗)と支那東海(七五六耗)とにあつて前者は東北東へ進み後者は北東進して同日十八時には朝鮮海峡に來り七日には日本海南部に衰へた。七百六十耗の等壓線は六日六時には滿州を南西へ去り遼東半島にて南東へ轉じ中鮮を斜斷して濱田境の中間より岡山と多度津の東側を経て北東へ向ひ土佐と伊豫の國境に沿ひ豊後水道南部に出で南下して居たが此等壓線は中國四國附近或は少しく東方へすり再び西方へ戻り又東方へ移るといふ風であつた。要するにタイした氣壓の變動はなかつたが此等壓線の附近殊に此線よりも低壓の側では降雨して居た。大体に於いて梅雨的天候を呈する氣壓配置であつた。廣島では氣壓は五日二十一時に最も高く七百六十一耗二で六日は一時の七百六十耗七が最高、十六時の七百五十八耗七が最低、七日は十一時の七百六十一耗五が最も高く四時の七百五十九耗二が最も低かつたがこの他になほ小高低がいくつもあつた。氣温は六日には五時に最も低く十三時に最も高く七日は一時に最高現はれ二十四時に最低となつた。風は六日には十時迄で静穏だつたが十一時より南の和風となり十三時より南西に轉じ十六時半頃より疾風となり十七時四十分急に風勢加はり十七時四十五分と同四十七分とに北西に方り電雷があつた。

急風は同五十九分頃衰へた。それで十八時には最も強く西風七米/秒九に達した。其後静穏となり二十三時に至る。二十四時前よりまた急に南々西風強く吹き出し和風となり七日一時には疾風となり二時には最も強よく南々西風七米/秒七に達した。しかし三時には和風四時には軟風となり五時よりは静穏となつた。雨は六日〇時五十分より降り出し午前中斷續し十一時十二分一旦小歇み午後は十六時五十八分より再び降雨漸續し二十二時三十四分に歇んだ。此間二十一時より二十二時迄の間に時々雨勢強くなつたので此の一時間の雨量は十耗一あつた此日の雨量は四十六耗六。七日には一時五十分より雨降り出で三十分間で歇んだ。そして四時五十九分と五時三分とに北東方で雷鳴があつた。雨は五時二十九分より又復降出し十七時三十五分迄で降續した。此雨量四十三耗二。此間八時と九時との間には雨勢強烈にして十五耗をはかつた。又二十三時二十五分から十八分間微雨あり此雨量〇耗一今縣下に於いて此兩日の雨量八十耗以上あつた地を列記すると

津田	155.3	西條	113.7	中黒瀬	97.6	吳	85.5
都谷	143.0	小國	105.0	君田	92.8	神田	84.6
中野	125.0	井原	103.9	田總	91.5	吉舎	83.0
伴	120.7	嚴島	100.0	吉田	86.0	吉川	80.1

11 十月六日の豪雨 四日に小笠原島の遙か南西方洋上に現はれた颱風(七四四耗)は五日には該島の遙か西方を北西へ進みつゝ漸次衰へ六日朝四國沖に來た時は七百五十耗となつたそれより徐々に東北東へ進行したので九州以東本州中部に至る地方は雨天となつたこの颱風は其後より來りし優勢な颱風のため七日に全く其形跡を失ふに至つた。然し本州中部より南海にかけて氣壓傾度が大となつたので(高氣壓は北海道方面にあつて七七〇耗以上になつて居た)南海岸地方は風力強烈となつた。廣島では氣壓は五日より下降し六日には一時二時及び九時に最も高く七百六十二耗七であつたが夜半には七百五十九耗三に下りなほも低下を續け八日四時に最低(七百五十三耗八)に達した。風は六日には北乃至北東風吹いたが風力弱く最強と雖も二十一時の北風二米/秒三にすぎなかつた。雨は一時五分より降り出で終日歇まず翌七日〇時〇九分に至り一旦小歇んだ。六日の雨量は五十八耗七あつた。今縣下に於ける雨量五十耗以上をはかつた地をあげると

嚴島	88.4	本郷	75.0	上下	66.0	川西	61.2	大朝	55.5
府中	84.6	御野	72.5	吉川	65.5	忠海	60.0	市	55.5

高坂	82.5	中野	71.9	津田	62.0	田嶋	60.0	都谷	54.0
神田	82.2	松永	71.6	尾道	62.5	吳	59.5	庄原	53.9
小泉	82.0	甲山	68.7	中黒瀬	62.2	小國	59.0	廿日市	52.0
伴	76.3	福山	68.0	油木	61.3	吉田	56.0	君田	50.6

12及13 十二月十日及十一日の強風 九日日本海西部にあつた低気圧は北東へ進行して十日オホーツク海に去つたが此日夕方本州東海岸に前の低気圧あつて北東へ進行しつゝ發達し千島方面では七百四十耗以下となり十二日には最も低く七百三十耗位になつた。そして西方支那大陸では高気圧が發達して十日には七百七十二耗以上十一日には七百七十耗以上だつたので氣層の傾斜急峻となり本邦各地に風力の増大を來し雨雪を降らした。廣島では氣壓は十日には一時に最も高く七百六十二耗七でそれより下降して十四時に最も低くなり七百五十七耗八に低下し午後上昇し十一日には十時に最も高く七百六十二耗七となり其後十三時十四時に七百六十一耗五の極小あらはれたがそれより又上昇した。風は九日九時迄は北々東若くは北東の風弱かつたが九時過より南々西の和風となり風向は西若くは南西と變じて風力は和風であつた十三時には北々西に轉じ軟風となつたが十四時西北西の和風となり十五時十六時には北西の疾風となり十七時より少し弱くなり十九時軟風となつたがまもなく急に風勢募り二十時には西の疾風となり同二十分に西風十米/秒六の最大に達した然し其後急に衰へ軟風となつた。そして夜半に一寸和風となつたが十一日一時よりは軟風となり四時よりは風向は北西寄りから北々東へ轉じ更に弱くなつた。然るに十時過より風向北西寄りとなるや急に風力加はり和風となり十二時には最強北西風十米/秒五に達した。それが十三時には急に和風に落ち十四時十五時に風勢もり返して疾風となつたが十七時以降は軟風となつた。雨は十日には十六時五十三分より二十一時三十七分迄で微雨斷續したが雨量は僅かに〇耗四に過ぎなかつた。十一日には十一時五十一分より十二時五分迄で微雪十二時十四分より同二十五分迄で霰降つたが測る程の量はなかつた。

14 十二月十五日の強風 十四日十八時に黄海西部に現れた低気圧は同夜朝鮮を横ぎり日本海西部に出で十五日には東北東へ進行しつゝ發達し七百四十耗低くになり同夜奥羽を横斷し十六日太平洋に去つた。そして高気圧は支那で大に發達し七百七十六耗を超へたので低気圧の後面では氣壓傾度が著るしく大となり風力強烈となり各地に雨雪を降らした。廣島では氣壓は十四日十時には七百六十六耗七であつたのがその後刻々低下し十五日十一時及び十二時に最も低く七百五十六耗

六に下り夫れより上昇した。風は十五日には六時迄では北東風七時より西寄りとなり弱かつたそれが十時過より急に風勢加はり和風となり十一時二十分には最も強く西風十米 秒二に達した。其後十六時迄主に西寄りの疾風吹いたが十七時より和風となり二十三時軟風となつた。(但し十九時には西の軟風)。雨は五時三分より降り出し九時六分一旦やむ此雨量二耗五。其後十時三十分より再び降り出し十三時五十分迄で斷續して一旦小歇み二十時五分より七分間又復微雨降つた。そして三十二時四分より微雪斷續し二十三時五十五分より霰降り翌十六日〇時四十分三分に歇んだ。此降水量は測る程なかつた。

顯著事項

1 低温なりし一月 一月の平均氣温は二度二八で平年より一度七七低かつた。斯月として低かつたことは明治十四年の一度七二を最とし大正六年の一度九之に亞ぎしのみにて本年は實に第三位を占むるに至つた。最高氣温の平均は七度二七で明治三十三年と同じく平年に比し一度八低く斯月としては明治十四年、同三十六年、同三十二年、同十八年、大正六年に亞ぐ低温だつた。最低氣温の平均は氷點下一度八五で平年に比し一度七四低く一月としては大正七年、同六年、明治十四年に亞ぐ低度であつた。高極は十度七(一日十五時)で明治十三年の十度六に亞ぐ低いものであつた。低極は氷點下五度二(二十日八時)でこれは稀有な低度ではなかつたが最低氣温〇度以下の日数は二十七日を算し大正七年に亞いで多數であつた。これ高氣壓の支那大陸にて著るしく發達し北支那にて七百八十耗に上りしこと數回ありて寒波の襲來屢々ありしに因る。

2 高温多雨多霧なりし二月 二月の平均氣温は六度八八最高氣温の平均は十一度九四で孰れも平年に比し二度六三高 期月としては明治二十三年同四十五年に亞ぐ高温であつた。最低氣温の平均は二度三八で平年より二度四二高く明治二十三年同十三年同四十五年に亞いでの高温であつた。高極は十七度八(二十三日十五時)で高温の第七位であり低極は氷點下三度三(一日七時)で高い方であつた。次に降水量は百九十六耗六あつたが平年の三倍二にあたり斯月としては未曾有の多量であつた。日量の最大は十一日の五十耗二で斯月としては明治四十五年二月二十八日の六十六耗二について多量である。降水日量0.1耗以上の日数は十一日あつたがこれは二月として珍らしいことではないが降水日量1.0耗以上の日数が十

日を算したことは二月としては明治二十三年同四十五年と同數で明治三十一年大正九年の十二月明治十三年の十一月に亞ぐ多數であつた。又降水日量十耗以上の日數は八日あつたが二月としては多數の新記録である。即ち降水日平均量が稀有の多量であつた。降水時量の最大は十一日十九時の十四耗で斯月の新記録を作つた。水蒸氣張力の平均は五耗八で平年に比し一耗四大であつた。明治二十三年の六耗一に亞いでの大なるものであつた。最大張力は二十四日十九時の十二耗五これ亦明治四十五年に亞ぐ大なるものであつた。湿度は平均七十七%で平年に比し七%大であつた。明治十七年同二十三年につぐ大なるものであつた。最小湿度は三十八%で矢張り最小としては六きな値を示した。これ高氣壓が支那大陸に占據することなく本邦に移動し來ること極めて頻繁にして且發達したる低氣壓の襲來する事屢々なりしに因る。

3 四月の高溫 四月二十七日十六時に最高氣溫は二十五度七に上つた。四月にこれよりも高溫となつたことは既往に於いて明治二十五年、大正二年、明治二十年だけで本年は第四位を占むるに至つた。これ二十五日より高氣壓(762耗)が小笠原島附近を占め二十七日には前の高氣壓(762耗)が九州支那東海東部より南海岸沖に擴大し氣壓の配布状態が南高北低となつたからである。

4 高溫雷雨なりし五月 五月の平均氣溫は十八度三九で平年よりも一度三二高かつたが五月の平均がかく高かつたことは未曾有のことである。最高氣溫の平均は二十三度八七で明治二十四年に亞ぐ高度である。平年に比し一度六三高かつた最低氣溫の平均は十二度七五で平年に比し〇度九三高かつたが高い方では第八位である。雨量は五十二耗六で平年に比し九十六耗七少く斯月としては明治二十八年、同四十二年に次ぐ少量であつた。然し雨天日數は十二日を算し平年より一日多かつた。(日量一耗以上の日數は七日あつたがこれは餘程少い方であつた)曇天日數は十六日あり明治二十九年、同三十五年と同數で平年より四日多かつた。既往に於いてこれよりも多數だつた事は明治三十二年、同二十三年、大正三年だけである。

5 六月八日の降雹 廣島では十三時二十五分より北西にて微雷あり十四時三分より同四十四分迄で北東にて微雷を聞いた。十五時二十八分より同三十二分迄北西にて同三十三分より三十六分迄北々西で雷鳴があつた此間十五時三十分一回電雷があつた。雨は十五時二十四分より全五十分迄で降つたが同二十八分から七

分間は中雨であつた。此雨量一耗二。此雷雨は本縣南部の各地及び大朝村に於いて觀測し備後南部には降雹し沼隈郡にては雹害を被つた所があり豊田郡高坂村では落雷のため一名即死し二名聾となつたものがある。又廣品郡栗生村にも落雷があつた。此日正午に於ける高低氣壓の配置は高氣壓は北海道の東方洋上にあつて762耗を示し低氣壓は八丈島小笠原島間(752耗)バシー海峡(748耗)滿州中部(750耗)にあり副低氣壓は岐阜縣(753耗)岡山縣(755耗)秋田沖(755耗)南鮮東部(755耗)等にあつたが九州中國では隨所で副低氣壓の起らうとする狀況を示してゐた。

6 よく照つた六月 六月の日照時數は二百三十一時間七で明治二十四年日照時觀測開始以來六月としてかく多照だつたことは曾て無かつた。平年に比し七十三時間五多かつた。

7 稀有の多雨だつた七月 七月の雨量は五百十四耗六で平年の二倍半にあつた。月總量がかく多量だつたことは既往に於て明治二十二年七月の六百十耗七を最とし同十八年六月の五百六十三耗七を次とし本年は實に第三位を占むるに至つたのである。日量五十耗以上だつた日は六日を算したががかゝることは既往に於いては孰れの月にも見なかつた。

8 稀有の高溫雷雨多照だつた八月 十五日十四時廣島では最高氣溫が三十七度七に昇り既往に於ける最高三十七度八(大正三年八月十二日)に亞ぐ氣溫を示したこれ小笠原島方面より來りし颯風が南海岸沖を西進したる際に其影響を受けて廣島では東寄りの風卓越しフェン作用に依りかく高溫となつたのである。平均氣溫は二十八度四二平均最高氣溫は三十四度〇三であつたが孰れも月平均の高溫の新記録を作つた。又最低氣溫の平均は二十三度七でこの種の月平均としては第四位の高いものである。次に雨量は僅に七耗九(この中六耗七は十二日に降つたので其他では日量一耗未滿であつた。)で平年の僅に七分に過ぎなかつた。斯月としては最少のレコードであり夏季の月總量としては第二位の少量であり全年を通じては第七位である。(但し第六位までの中五回は冬季が占めてゐる。)雨天日數は四日で斯月としては明治十九年と同數で明治十六年に亞ぐ少數である。又日量一耗以上の日數は僅かに一日で斯月としては新記録であり全年を通じても稀有の少數であつた。

日照時數は二百九十二時間八で八月としては日照時觀測以來初めての多照であり全年を通じて見ても明治二十六年七月の三百十八時間五に亞ぐ多照であつた。

梅雨期の天候

六月十五日に至り気圧の配布状態が漸く梅雨期の状態を示し十六日午后に至り降雨を見たが挿秧には不充分であつた。そしてその後は梅雨霽れとなり下旬に入るや気圧の配布状態は梅雨期的となり連日曇であつたが降雨せず二十五日に至り初めて人々の望みを充すに足る多量の降雨を見例年よりは遅れたが植付を完了するを得るに至つた。七月には五日より八日に亘り本邦西部を北上した颱風があり上旬連日雨天であつたが十日を以て梅雨期は打切りとなつた。今六月十日より七月九日迄での三十日間を梅雨期と假定して此間に於ける氣象状態を見るに十日は曇天で時々小雨降つたが十一日より十五日までは晴天であつた。十六日には二十耗二の降雨ありしも十七日より二十日までは晴天で(十七日六時半から五分間小雨が降つたが量はなかつた。)二十一日より二十九日までは曇天此間二十四日より二十九日までは日として雨の降らない事はなく殊に二十五日には多量の降雨があつた。三十日は辛じて晴天となつたが七月に入るや連日雨天此間豪雨屢々傾注したが十日午前を以て雨霽れ十一日は好晴となつた。總雨量は五百九耗五で昨年比し五耗三少なかつたが平年に比し二百五十四耗六多かつた(丁度二倍にあたる)。日量の最大は七月三日の百耗を、時量の最大は同日二十二時の二十九耗三を最とする。雨天日数は十六日を算し昨年よりも三日平年よりも一日少なかつた。しかし日量五十耗以上あつた日は六日を算し昨年よりも一日多かつた。實に稀有の事である。気圧は平均七百五十五耗四で昨年比し〇耗七平年に比し一耗一低かつた。気温は平均二十二度九で昨年よりも一度三平年よりも〇度四高かつた。最高気温は七月六日十六時の三十度七を、最低気温は六月十二日六時の十四度を最とする。湿度は八十%にして昨年比し五%少なかつたが平年よりも一%多かつた。雲量の平均は八.一で昨年比し〇.八少なかつたが、平年に比し〇.三多かつた。日照時数は百五十八時間で昨年よりも三十九時間、平年よりも七時間多かつた。快晴日数は皆無晴天日数は十日あり昨年よりも四日多かつた。曇天日数は二十日を算し昨年よりも四日少なかつた。雷雨日数は一日も無かつた。要するに高温で日照時数多く多雨ではあつたが晴良の日が多かつた。梅雨期に入るのが遅れたが豪雨頻りに臻り早く切りあぐるに至つたので経過は悪い方ではなかつた。

霜雪の季節

終雪は尾道・久井等の三月二十日を最早とし、三月二十四五日に起つた所が多

く、中野村の四月十七日を最晩とする。各地とも昨年及び平年よりも晩かつた。終霜は松永の三月二十八日最も早く廣島・忠海・尾道等の同二十九日之に亞ぎ内陸部にては五月十三日同二十四日に起つた所多く、豊田郡、神石郡の一部に於ける六月一日、甲奴郡の一部に於ける六月二日を最晩とする。沿海部では昨年及び平年に比し早かつたが其他では概して晩かつた。初霜は八銚の十月十日を最早とし同十二日には内陸部では廣區域に亘つて之を見たが沿海部では十一月十一日にあつた。最も晩かつたのは十日市の同二十一日である。昨年に比し沿海部では少しく晩かつたが其他では早かつた。それから平年に比し早現の所が多かつた。初雪は北部及び西部國境附近にて十一月十日に見たのを最早とし二十六七日には廣區域に亘つて之を観測したがこの時になほ降らなかつた忠海・鞆等では十二月五日にあつた。昨年よりも晩かつたが平年よりも早かつた。

地震

本年本縣に於いて観測した地震總數は六十回で前年よりもまた平年よりも三十七回多かつた。

- 1 一月一日の地震 一日二十一時四十二分頃雙三、世羅郡等で微震を感じた。十日市では震前に地鳴を聞いた震央は三次附近である。
- 2 一月二日の地震 二日十二時四十七分頃雙三郡にては弱震(弱き方)を感じた性質稍急にして震前に地鳴を聞いた。震央は三次附近。此日二十時五十七分頃雙三、比婆郡はで弱震甲奴世羅郡等では微震を感じた。君田村では地鳴を聞いた。震央は備雲石國境附近である。
- 3 一月三日の地震 三日六時五十四分頃雙三比婆甲奴世羅郡及び山縣郡北部等にて微震を感じ君田村では地鳴を聞いた。震央は前夜の分と略同じ所である。
- 4 一月七日の地震 七日二十時二十九分頃比婆雙三郡の北部山縣郡北西部等で微震を感じ君田村では地鳴を聞いた。震央は三日の所と大差ない。
- 5 一月十三日の地震 十三日三時四分廣島では稍急な微震を感じた。震源は廣島を距る約百耗なる備後灘である。中黒瀬、海田市、忠海、伴等でも微震として感じた。
- 6 一月十五日の地震 十五日七時二十三分頃雙三、比婆兩郡の北部で弱震を感じた所があり、君田村では地鳴を聞いた。震央は備石雲國境附近である。
- 7 三月三日の地震 三日十五時五十四分安藝南部で稍急激な弱震を感じ中黒瀬

では震前に津田では同時に地鳴を聞いた。震源は廣島を距る約三十九軒なる安藝海である。

8 三月十日の地震 十日十時二十八分頃中黒瀬にて微震を感じたがこれは安藝海西部に發したものである。

9 三月十五日の地震 十五日二十二時十八分頃比婆郡西半部三次、十日市、小國、井原、都谷、八幡、伴、吉川等にて地震を感じたが北部では弱震程度であつた。震央は備雲石國境附近である。

10 三月十七日の地震 十七日十時二十分吳海田市等にて微震を感じたが燧灘に發したものである。

11 四月四日の地震 四日二十三時五十二分吳、府中、吉川等にて地震を感じた震央は備後灘である。

12 四月二十六日の地震 二十六日十時十三分廣島では稍遠地地震を感じたが人身に感覺はなかつた。震源は廣島を距る東方約七百二十軒の所で震央は千葉縣木更津附近である。この地震のため關東南部では數名の死傷者を出し古い建物の倒れたものもあり石崖の崩壊した所もあり屋根瓦の落ちた所も少くなかつた。強震區域は千八百七十方里弱震區域は一万二百方里、有感覺微震部は二万六千四百方里に亘つた。

13 五月十九日の地震 十九日九時五十九分廣島にては稍急激なる弱震を感じた地震の初めに於いて東北東より地鳴が開きた丁度貨物自動車電車を通過するが如き音であつた。此地震は世羅郡西部に發したもので震央附近では強震の弱き程度であつた。中黒瀬、本郷、上下、庄原等では地震前に津田、井原、生桑、油木、田總等では地震と同時に地鳴を聞いた

14 七月四日の地震 四日十時四十分頃本郷、小國、三次、庄原、上高野山で弱い地震を感じた。震央は馬洗川流域である

15 七月十二日の地震 十二日十三時三十一分廣島及吳にて稍急激なる、微震を感じた。廣島の南西方約百二十三軒を距る別府灣に發したもので弱震部は一万一千三百方軒微震部は四万八千方軒に亘つた。

16 八月九日の地震 九日六時七分廣島では緩慢なる微震を吳にては弱震を感じた。此地震は安藝全部及十日市にて感じ津田、中黒瀬では地鳴を聞いた。此地震は廣島を距る六十七軒なる周防國大島附近に發したもので弱震部は五千五百方軒

震部は三万六千八百方軒に亘つた。

17 八月十九日の地震 十九日十四時三十三分廣島では稍急激な微震を感じた。此地震は本縣の大部分に於いて人身に感じた。此地震は廣島の北東方約七十軒なる三次附近に發したもので震央に近い所では可成り強かつた。此日十五時五十一分に十日市、上下、小國、中野、上高野山、西城等にて弱震若くは微震を感じ中野村では地鳴を聞いたが前者の餘震で震央も大差ない。

19 八月二十日の地震 二十日十四時二十八分頃上高野山、久井等で弱い地震を感じた。震央は前日の所と大差がない。

20 十二月八日の地震 八日一時五十一分廣島にて緩慢なる微震を感じた。此地震は廣島の南西方二百七十八軒なる長崎縣千々岩灘に發したもので震央附近では死傷者や家屋の倒壊山崩等被害大であつた。強震部は二千七百六十四方軒、弱震部は九萬四千二百方軒微震部は二十三萬五千六百方軒に亘つた。

此地震の餘震は八日中に八回簡單微動計に感じたがその中十一時四分のものは最も顯著で尾道市で人身に感じた。其後九日十一日にも各一回づつ餘震が同微動計に感じた。又此地震の前震とも見るべきものが七日十六時十八分にあつた。

第二章 廣島の氣象

廣島に於て觀測した各氣候要素に就て其梗概を述べると次のようである。

氣壓 月平均は一月が最も高く七百六十七軒七、六月が最も低く七百五十六軒五であつた。年平均は七百六十二軒五にして昨年よりは〇軒三平年よりは〇軒四高かつた。高極は二月一日十時の七百七十七軒二を、低極は四月二十四日六時の七百四十五軒五を最とする。

風 北々東風最も多く、南西風之に亞ぎ東南東風が最も少なかつた。平均風速度は二米/秒〇にして前年と同じく平年より〇米/秒八弱かつた。最大風速度は三月二十日十四時に起つた西南西風の十六米/秒四を最とする。

氣溫 一月に最も低く二度三、八月に最も高く二十八度四であつた。昨年に比し一月及び十二月は低かつたが其他の月は高かつた又平年に比し一月三月、十一月十二月は低く七月は同度であつたが其他は高かつた。年平均は十五度一にして昨年よりは〇度六平年よりは〇度四高かつた。最高氣溫の平均は二十度五にして昨年より〇度六高くして平年より〇度八高く、最低氣溫の平均は十度二にして平年

に同じく昨年より〇度四高かつた。高極は八月十五日十四時に起れる三十七度七を、低極は一月二十日八時に起れる氷點下五度二を最とする。

氣濕 湿度は平均七十四%五にして前年より〇%四少なかつたが平年より〇%二多かつた。最濕の月は七月で八十%〇四、最乾は十二月で六十九%三であつた。

最小湿度は五月十二日十六時の二十四%を最とする。

水蒸氣張力は平均十耗八にして昨年よりも〇耗五、平年よりも〇耗三大であつた飽差の月別平均は八月の七瓦八が最大で一月の一瓦七が最小であつた。年平均は三瓦九であつて、最大は八月二十三日十四時の二十六瓦四を最とする。

蒸發と降水 蒸發量は八月の二百十二耗一を最とし、十二月の四十二耗九を最とする。年總量は千百九十七耗三で昨年より八十七耗二多かつたが平年に比し四十八耗八少なかつた。

降水量は七月の五百十四耗六が最も多く八月の七耗九が最も少なかつた。年總量は千五百六十耗六にして昨年よりは百六十五耗九少なかつたが平年よりは四十耗六多かつた。日量の最多は七月三日の百耗を、時量の最多は同日二十二時の二十九耗三を最とする。

霧量と日照 霧量の月平均は一月の七.五が最多にして八月及び十一月の四.七が最少であつた。年平均は六.三で平年に同じく昨年より〇.五少なかつた。

日照時数は二千三百一時間四にして昨年より二百三十五時間五平年より二百五十九時間二多かつた。可照時數に對する百分率に就いて見るに最大は八月の七十一%最小は一月の三十三%であつた。年平均は五十二%で昨年及び平年よりは五%大であつた。

地温と井水温 地面温度は一月の三度六最も低、八月の三十六度一が最も高かつた。年平均は十八度で昨年より比し一度、平年に比し〇度九高かつた。最低地温は一月二十日八時の氷點下十一度九が最も低かつた。地中温度は深さ〇米三の所では一月が最低で五度六、八月が最高で二十九度六であるが一米二の深さでは二月が最低で十度六、九月が最高で二十三度五を示し三米の深さでは三月に最も低く十三度五、九月に最も高く十九度九であり更に五米の深さでは五月に最低で十五度二、十一月に最高で十七度五であつた。

井水量は七月に最も多く十二月に最も少なかつた。井水温度は九月に最も高く二十一度九、二月に最も低く九度五であつた。一年中の絶對較差は十三度八で昨年

に比し一度大であつた。

天氣日數 降水日數は百三十二日にして昨年より比し十九日平年に比し四日少なかつた。月別日數では三月が最も多く十七日を算し、八月が最も少く四日を算した快晴日數は三十八日で平年に同じく昨年よりも十一日多かつた。各月中最も多かつたのが十月及び十一月で七日あり、八月の六日が之に亞ぎ一月は皆無であつた曇天日數は七月に最も多く十七日あり、五月の十六日が之に亞ぎ、八月の五日が最も少なかつた。年總數は百二十七日を算し昨年よりは二十一日少きも平年よりは二日多かつた。

暴風日數 (平均風速度十米/秒以上)は八日即ち十二月に三日、三月に二日、二月、四月、七月に各一日、あつただけで他の月には無かつた。昨年より比し一日、平年に比し二日多かつた。そして烈風(平均風速度十五米/秒以上)に達した日は三月に一日あつたのみである。

霜雪 終雪は三月二十五日、終霜は三月二十九日に起り、前者は昨年より十日、平年よりは八日遅く、後者は昨年より十一日、平年より九日早かつた。

初霜は十一月十一日にあり昨年より比し一日遅かつたが平年に比し五日早かつた。初雪は十一月二十六日にあり昨年より比し十八日遅かつたが、平年に比し十四日早かつた。

地震 總回數は五十四回で昨年よりは三十九回平年よりは四十四回多かつたがかく多震だつたのは十二月に長崎縣千々岩灘に裂震があつたのも其一因である此中人身に感じたのは六回で(昨年と同數)其中五回は微震、一回は弱震であつた。

所謂厄日頃の暴風に就いて

中 村 勝 次

二百十日前十日二百十日二百二十日を厄日として農家は勿論一般の人からも大變恐れられてゐるが是等の日には必ず強い風が吹くと定つてゐない。今二百十日を九月一日とすれば前十日は八月二十二日になり二百二十日は九月十一日にあたるそれで明治二十一年以降大正十年迄三十四年間の八月二十日から九月一杯の間に風速度十米/秒以上(普通に暴風といふてゐる)に達した日が何日あつて何日頃が一番多いか少いか等に就て調査して見た所が次の様である。

八月下旬に暴風のあつた年は九ヶ年で其日数は十七日に過ぎない。その中で二十二日に起つたのは三ヶ年で二十五日が五ヶ年二十六日が四ヶ年であるから二十二日より二十五日の方が暴風になる確率が大である。次に九月にはどうかといふに暴風のなかつた年が十ヶ年ある暴風日数は五十一日あつた。明治二十八年同三十三年には四日も暴風があつた。

今九月に於て最初強風に達した日の平均起日を算出して見ると約十一日になる併しこれで以て十一日が一番危険だといふことは餘りに早まつたことである。それは十一日の日に初めて強風以上吹いた年は明治二十二年と大正三年とだけであるから。次に九月中に風速度十米/秒以上に達した日は何日が一番多かつたかといふに八日と十一日の各五を最多とし六日と十四日との各四を次とするとして二日十二日十五日二十六日には是迄に強風吹いたことがない。旬別に見ると上旬は二十一でそれが四日六日八日と一日おきに數が多く中旬には十七でこれが十一日十四日十七日二十日に中二日おいて數が多い。下旬には十三でこれは上旬と似たところがある上中下旬と等差級數を示して減少してゐる。

それから二日間の數が最も多いものは七日八日の七と十日十一日の七とである三日間の數が最も多いものは六日七日八日の十一日を最とする他は八以下であるそれで六日から十一日までの六日間に十九(三十七%)にあつたそれで此間が比較的多いといふことが出来る。

次に九月中に十米/秒以上となつた日の最強風の方向とその方向別回數に就て述べる。

強風(十米/秒-十四米/秒九)の吹いた日数は三十八烈風(十五米/秒-二十八米/秒九)日数は十二颶風(二十九米/秒以上)は明治二十四年九月十四日に南風三十三米/秒七に達したのが只一回あつただけである。方向別では北北東が最多で十二、次が北風で十、三番目は南風の八、四番目は南西風の六といふ順であるが東北東風、東風、西風、北西風、にかけては強風に達したことがなかつたこれを又風力別にして見ると強風は北々東の十を最多とし北の八、南西の六といふ順であるが、烈風になると西風の四が最多で北、北々東、北々西の二が之に亞ぐ。

十六方位を單に北寄りの風、南寄りの風の二口に大別して見ると回數は前者は二十八(五十五%)で後者は二十三(四十五%)である。

これを旬別に更に風力別に表示すると。

	北 寄 り の 風				南 寄 り の 風			
	強 風	烈 風	颶 風	計	強 風	烈 風	颶 風	計
上 旬	7	1	—	8	8	5	—	13
中 旬	8	2	—	10	6	—	1	7
下 旬	6	4	—	10	3	—	—	3
計	21	7	—	28	17	5	1	23

この表中上旬の南寄りの烈風五回の中四回迄は南風である。中旬に於ける北寄りの烈風二回はどれも北々西風である。下旬の烈風四回中二回は北風である。

此の表の數は何を示してゐるかといふに深厚な低氣壓が上旬には廣島以西を南より北へ若くは南西より北東へ進行するものゝ方が廣島以東を北東進するものよりも多いこと、即ち颶風が來たとしてもそれが支那東海邊で方向轉換をして太平洋方面へ出るよりも朝鮮の方へゆくか日本海の方へゆくかするものゝ方が多かつたそれが下旬になると四國沖を通過し北東進するものゝ方が著しく増加することを示して居る。それから中旬に北々西風が三回ありその中二回は烈風であるが、これは颶風の中心が廣島の東方餘り遠く隔らない所を通過した事を示してゐる。

又颶風の中心が支那東海邊で進向方向を轉じた後の進路が北より段々東へ偏する度が上旬よりも中旬の方が中旬よりも下旬の方が大となる。それから進行方向を轉換する位置が段々東の方へ移る即ち支那東海に入つてから方向を轉じるものが後には琉球列島の東方洋上で方向を換へることゝなるを知る。(このことは岡田博士の御研究によつて既に明かである)。

以上のべた所により六日から十一日頃までは最強風速度十米/秒以上となることが

多いことがわかつた。さりとて二百二十日も無事に済んだから最早大丈夫と安心するわけにはいかぬ。下旬に於て北寄りの烈風が四回もあつたことから見ても油断は出来ない。十月半にならねば颱風の脅威から全然免れることは出来ない。終りに米作との関係を見るに、暴風の無いにこしたことはないが強風であれば再三やられさへせねば、其以前の経過が順調でさへあれば悲観することはないが烈風殊に二十米/秒以上の風速度のものに襲はれては寶船は轉覆して豊年の夢は破られ悲哀なる現實がたましとも目前に展開される事になるのである。本年は苗代期插秧期に於て降雨少なかつた爲め一時は悲観されたが其後は適順に経過し二十日前十日も二百二十日も無事に過ぎた。そして待ちこがれてゐた雨も欲しい程の量は恵まれた。今はただ颱風の襲來のなきやうに祈るばかりである。

(大正十一年九月四日)

大正十一年 氣象概覽 廣島

月	氣 溫 (攝氏)														絕對 較差
	平均	平均			每日較差の		高 極 の				低 極 の				
		最高	最低	較差	最大	起日	最高	起日	最低	起日	最高	起日	最低	起日	
一月	2.28	7.27	-1.85	9.12	12.7	28	10.7	1	15	20	3.6	13	-5.2	20	15.9
二三月	6.88 6.89	11.94 12.56	2.38 1.47	9.56 11.09	15.0 16.2	19 18	17.8 16.9	23 18	6.3 5.8	7 24	9.8 7.6	25 31	-3.3 -2.5	1 2	21.1 19.4
四月	13.57	19.24	7.96	11.28	16.3	27	25.7	27	13.1	6	13.9	22	1.4	10	24.3
五六月	18.39 22.10	23.87 27.21	12.75 17.05	11.12 10.16	15.6 17.9	13 1	28.3 30.0	29 19	20.0 21.8	7 5	16.6 21.0	29 25	6.2 8.0	4 1	22.1 22.0
七月	25.47	29.52	21.82	7.70	11.9	23	33.8	22	23.7	3	24.9	25	17.2	13	16.6
七八月	28.42 24.04	34.03 28.81	23.71 19.89	10.32 8.92	14.2 14.7	23 22	37.7 33.7	15 2	32.1 23.8	30 8	26.5 24.6	6 4	20.1 11.6	26 22	17.6 22.1
九月	24.04	28.81	19.89	8.92	14.7	22	33.7	2	23.8	8	24.6	4	11.6	22	22.1
十月	17.21	23.64	11.48	12.15	15.9	23	29.1	2	18.7	25	17.0	1	5.0	12	24.1
十一月	10.64	16.63	4.91	11.72	15.9	3	23.3	5	9.9	26	11.3	1	-0.1	24	23.4
十二月	5.29	10.96	0.45	10.51	14.3	22	15.5	9	7.15	16	5.0	28	-2.4	22	17.9
全年	15.10	20.47	10.17	10.30	17.9	1 VI	37.7 VIII	1.5	20 I	26.5	6 VIII	-5.2	20 I	42.9	

月	氣 壓 (700.十)(耗)				水蒸 氣の 張力 耗	濕 度 %		降 水 量 (耗)				蒸 發 量 (耗)	雲 量 平均 0-10			
	平均	高 極	起 日	低 極		起 日	平均	最 小	起 日	總 計	最 大					
											二十四 時			起日	一時間	起日
一月	67.73	76.2	31	59.4	9	3.92	73.4	33	10 19	53.6	19.2	14	3.10	14	1.71	7.5
二三月	65.34 64.92	77.2 73.6	1 9	52.8 53.4	11 23	5.79 5.32	77.0 71.8	38 25	4 17	196.6 144.3	50.2 21.1	11 16	14.0 5.0	11 16	1.74 2.55	7.2 6.3
四月	62.56	73.3	10	45.5	24	8.42	72.4	31	5	112.7	70.1	24	20.8	24	3.21	6.4
五六月	60.14 56.46	67.5 62.5	6 3	47.9 46.1	31 16	11.16 14.61	71.6 75.0	24 35	12 19	52.6 124.1	19.6 60.6	31 25	20.0 13.5	31 5	4.41 4.78	6.9 6.8
七月	58.25	63.2	15	52.2	21	19.75	82.4	44	23	514.6	100.0	3	29.3	3	4.48	7.3
七八月	57.92 61.62	62.4 69.2	17 30	49.3 55.1	24 4	21.04 17.67	74.2 79.2	39 39	23 24	7.9 176.7	6.7 46.6	12 6	6.3 15.0	12 7	6.84 3.79	4.7 6.5
九月	63.52	71.0	12	54.2	8	10.73	73.6	35	11	96.0	58.7	6	6.1	25	2.77	5.1
十月	65.65	71.9	6	56.0	1	7.12	74.6	38	30	66.3	25.0	25	6.0	25	1.55	4.7
十一月	65.76	73.0	26	57.0	5	4.55	69.3	32	24	15.2	7.2	28	2.8	28	1.38	6.2
全年	62.49	77.2	1 II	45.5 24 IV	10.84	74.5	24	12 V	1560.6	100.0	3 VII	29.3	3 VII	3.27	6.3	

月	風 速 度 (米/秒)				日照時 總計	%	天 氣 日 數											地 震 (回數)
	平均	最 大	方 向	起 日			降 水 量 ≧0.1 ≧1.0	雪	霰	電	霜	霧	雷	快 晴	曇 天	暴 風		
																	≧0.1 ≧1.0	
一月	1.82	9.3	W	20	102.41	33	16	8	14	1	0	25	0	0	0	12	0	1
二三月	2.14 2.55	13.1 16.4	SSW WSW	24 20	129.32 198.33	42 54	11 17	10 14	2 2	0 1	0 0	10 13	3 1	0 1	1 4	12 11	1 2	0 0
四月	2.20	10.9	NW	17	221.89	57	10	7	0	0	0	0	0	1	2	11	1	0
五六月	1.92 1.63	7.0 6.6	NNW SW	3 9	231.62 231.65	54 54	12 9	7 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 3	0 2	4 1	16 11	0 0	0 0
七月	1.68	10.5	SW	2	199.67	46	14	11	0	0	0	0	4	4	1	17	1	1
七八月	1.77 1.67	6.3 7.9	N W	24 6	232.90 158.81	71 43	4 14	1 9	0 0	0 0	0 0	0 0	6 2	6 1	6 4	5 13	0 0	1 0
九月	1.94	5.8	SSW.N 2.10	26	200.15	57	6	3	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0
十月	2.16	9.5	WSW	23	185.47	60	11	8	2	0	0	3	2	1	7	6	0	0
十一月	2.10	10.5	NW	11	149.26	49	8	3	6	5	0	18	1	0	1	6	3	0
全年	1.97	16.4	WSW	III 20	2301.38	52	132	87	26	7	0	69	16	16	38	127	8	6

重力更正數-0.71 海面更正數+0.29

種目	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	----

方向別暴風時數

北北東													
北北西													
東北東													
東北西													
東南東													
東南西													
南南東													
南南西	1												1
西南西			1										1
西南北			3										3
西北北				2									2
合計		1	4	2			1						9

暴風日數

強風10-15米		1	1	1			1						3	7
烈風15-29米			1											1
颶風29米以上														1
合計		1	2	1			1							8

量別降水日數

00耗	7	1	2	1	2	3	1	3	3	8	4	8	43
0.1-1	8	1	3	3	5	3	3	3	5	3	3	5	45
1-3	3	2	2	3	3	2		1	1	1	1	1	19
3-5	1	1	1	1	1				1	1	1	1	6
5-10	2	1	3	2	2			1	3	1	1	1	16
10-15	1	3	5	1	2	1	2		2		1		11
15-20	1	1	2	1	2	1			1				5
20-25	1	1	1			2	1				1		3
25-30		1					1						2
30-35		1								1			1
35-40										1			1
40-45										1			2
45-50									1				6
50-60		1											1
60-70						1							2
70-80					1								
80-90													
90-100								1					1
100-120													
合計	16	11	17	10	12	9	14	4	14	6	11	8	132

五日以上引續きて雨降りし日數

日	自	至	日數	事	日	自	至	日數	事
12	月	日	13	十六日に(10.1)	日	月	日	5	十三日に(10.0)
15	III	20	III	二十五日に(10.1)	3	IX	11	IX	十一日に(10.0)
23	III	28	III	十八日に(10.0)	25	IX	2	X	十八日に(10.0)
27	V	31	V	二十六日に(10.0)	22	XI	28	XI	二十四日に(10.0)
24	VI	29	VI	二十七日に(10.0)	6				八日に(10.0)
1	VII	10	VII	十日に(10.1)	10				

十日以上引續きて雨降らざりし日數

日	自	至	日數	事	日	自	至	日數	事
10	V	21	V	十八日に(10.1)	日	月	日	13	二十日に(10.0)
11	VII	23	VII	十二日に(10.2)	12	IX	24	IX	二十三日に(10.0)
28	VII	11	VII	十七日に(10.0)	15	X	24	X	十九日に(10.0)
17	VIII	2	VIII	三日に(10.6)	17	XII	26	XII	十七日に(10.0)
				十七日に(10.0)					

種目	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	----

日々平均気温の差 (攝氏)

平均	1.16	1.59	1.46	1.42	1.15	0.87	0.81	0.61	1.03	1.74	1.49	1.13	1.21
----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

気温度別昇降回数

上昇	0°-2°	1.3	14	12	11	11	16	12	11	10	15	11	13	149
下降	2°-4°	2	3	3	4	4	2	3	1	1	4	2	2	31
昇降	4°-6°			2										2
	6°-8°										1			1
合計		15	17	17	15	15	18	15	12	11	19	14	15	183
下昇	0°-2°	14	9	11	11	12	11	16	17	15	3	10	12	141
下降	2°-4°		1	3	2	3	1			3	8	6	2	30
	4°-6°	2			1						1		1	5
	6°-8°		1											1
合計		16	11	14	14	15	12	16	18	18	12	16	15	177
昇降ナシ				1	1			1	1				1	5

草上最低温度 (攝氏)

平均	-7.34	-2.80	-3.58	3.82	9.57	14.72	20.51	22.02	18.67	8.63	1.38	-3.21	6.87
最低	-11.9	-10.5	-8.5	-2.7	1.7	5.5	14.9	18.0	8.6	2.4	-4.1	-6.1	11.9
起日	20	1	29	10	4	1	12	26	22	12	21	22	20

最低気温の平均よりも低きこと (攝氏)

平均	5.49	5.18	5.05	4.14	3.18	2.33	1.31	1.69	1.22	2.85	3.53	3.66	3.30
----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

気温類別日數

最低0°以下	27	6	9								1	12	55
平均0°以下	4												4
最高0°以下													
最低25°以上								4					4
平均25°以上								19	31	14			64
最高25°以上				1	8	24	28	31	24	11			127
最高30°以上						1	15	31	12				59
草上最低0°以下	31	21	27	9							11	31	130

上層雲の方向及其回数

平均方向	N84W	S85W	S87W	N85W	S83W	S80W	S83W	S80W	S74W	S70W	S84W	S82W	S82W
回数%	97	89	98	97	95	90	78	52	87	90	96	95	86

井水温度 (攝氏)

平均	9.97	9.48	10.08	11.74	14.28	16.57	19.96	21.38	21.93	19.76	16.36	12.61	15.34
----	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

雑項

種目	初日	終日	継続日數	の最多									
最低0°以下	54	24XI(前年)	29	III	126	24	XI	17	I	1	II	16	
平均0°以下	4	19	I	22	I	4		19	I	22	I	4	
最高0°以下													
最低25°以上	4	3	VIII	16	VIII	14		1.6, 11, 16	VIII			I	
平均25°以上	64	6	VII	19	IX	76		14	VII	5	IX	54	
最高25°以上	127	27	IV	26	X	183		6	VII	7	IX	64	
最高30°以上	58	19	VI	19	IX	93		28	VII	3	IX	38	
最高35°以上	3	15	VIII	24	VIII	10		23	VIII	24	VIII	2	
最低地温0°以下	128	30X(前年)	18	IV	171	10	XI	29	XII(前年)	6	II	39	
霜	75	10XI(前年)	29	III	140	11	XI	16	I	1	II	17	
降雪	24	8XI(前年)	25	III	138	26	XI	19	I	24	I	6	
降積雪	12	25XII(前年)	25	III	91	27	XII	14, 19	I	16	21	I	3

管内の気象

平均気温 (攝氏の度) (*を附したるは最高最低の平均、其他は自記寒暖計による十二回観測平均)

Table with columns for month (一月 to 十二月, 全年, 超月日) and rows for various locations (可部, 加計, 中野, etc.).

気温高極 (攝氏の度) (*を附したるは最高寒暖計による、より其他は自記寒暖計による)

Table with columns for month and rows for various locations, showing maximum temperature data.

地名, 月, 一, 二, 三, 四, 五, 六, 七, 八, 九, 十, 十一, 十二, 高極, 超月日

Table with columns for month and rows for various locations (松永, 福山, etc.), showing temperature data.

気温低極 (攝氏の度) (*を附したるは最低寒暖計による、より其他は自記寒暖計による)

Table with columns for month and rows for various locations, showing minimum temperature data.

最高気温の平均 (攝氏の度) (*を附したるは最高寒暖計により其他は自記寒暖計の最高平均より算出した)

Table with columns for month and rows for various locations, showing average maximum temperature data.

降水最大日量 (種)

Table of maximum precipitation by month and year for various locations. Columns include month (一 to 十二月), annual total (全年), and location names (e.g., 可加筒吉, 河内, 津大野, etc.).

降水日数

Table of precipitation days by month and year for various locations. Columns include month (一 to 十二月), annual total (全年), and location names (e.g., 可加筒吉, 河内, 津大野, etc.).

晴天日數

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
件	12	8	15	7	19	17	11	197
可加爾吉	5	4	14	18	18	20	14	...	8	7	6	3	184
部計賀和	5	9	17	17	16	15	15	27	10	23	16	14	...
內幡野谷原	6	10
戸八中郡井	4	12	19	22	28
田竹島市	1	6	9	19	21	18	21	30	199
津大巖甘海	4	11	16	13	19	21	20	30	16	17	18	14	167
日田	7	14	17	15	17	13	13	23	6	18	14	10	146
野川條瀨	11	11	10	6	8	12	8	23	13	19	13	12	196
美野田郷坂	8	12	16	14	22	10	15	25	16	21	17	20	197
泉友海道永	17	11	14	13	17	17	15	24	12	21	16	20	197
山野中	21	16	19	18	16	17	13	18	10	18	21	25	212
井山下國西	17	13	19	16	14	10	8	15	6	19	15	19	171
吉三田大壬	12	14	19	24	24	20	19	27	17	25	17	21	239
田市次和原	15	10	17	10	14	15	12	15	11	14	6	6	145
城録山田野	5	6	9	12	13	17	23	7	12	18	15	15	149
桑釋城木	9	10	18	20	19	19	18	30	19	21	19	19	221
生帝東油	25	15	18	20	16	18	15	22	13	16	18	26	222
乃戸神水高	11	7	15	22	16	23	18	29
小久忠尾松	2	5	9	16	12	7	9	19	7	12	14	9	121
福御府	5	5	11	15	21	7	11	18	10	8	12	9	182
吉三田大壬	13	15	20	15	22	21	19	28	14	17	18	22	224
吉三田大壬	10	14	13	7	14	12	13	9	9	8	13	17	39
吉三田大壬	20	21	27	22	26
吉三田大壬	11	7	16	4	11	18	17	17	16	19	20	22	188
吉三田大壬	11	6	15	14	7	8	13	21	6	26	4	12	143
吉三田大壬	17	17	17	16	19	15	17	30	14	20	20	16	218
山野中	24	18	20	19	22	24	23	30	22	22	28	27	279
山野中	12	10	11	6	8	10	5	3	9	4	1	1	88
山野中	13	14	20	14	19	16	20	28	15	22	19	18	218
山野中	10	8	14	16	12	17	18	22	9	19	18	13	176
井山下國西
井山下國西	14	18	20	20	21	...	16	29	19	23	17	21	...
井山下國西	6	5	10	10	192
井山下國西	11	10	9	20	12	21	25	14	22	15	19	15	161
井山下國西	7	9	14	11	11	15	23	10	16	19	15
井山下國西	7	11	17	18	21	16	29	15	22
舍坂總朝生	8	14	18	15	27	14	18	17	15	...
舍坂總朝生	7	10	10	13	194
舍坂總朝生	8	6	9	20	18	20	18	25	14	28	18	10	152
舍坂總朝生	2	7	11	21	13	13	16	26	12	10	10	11	186
舍坂總朝生	4	15	18	19	17	10	16	26	15	20	15
田市次和原	5	16	20	16	18	13	16	29	14	21	19	10	197
田市次和原	8	15	17	19	18	14	27	27	15	22	20	16	218
田市次和原	7	8	10	16	17	15	19	23	11	16	7	6	155
田市次和原	8	12	11	25	29	25	24	30	15	29	24	18	250
田市次和原	9	9	6	15	13	5	3	1	13	14	15	13	116
城録山田野	21	18	16	13	25	20	13	...
城録山田野	5	10	12	25	26	19	15	23	20	20	9	16	200
城録山田野	8	5	13	9	16	20	18	19	...	15	10	13	...
城録山田野	9	11	17	24	19	17	21	30	17	19	16	9	209
城録山田野	8	10	7	19	21	15
桑釋城木	11	13	11	18	13	14	7
桑釋城木	7	11	17	12	19	14	19	16	19	22	15	10	181
桑釋城木
桑釋城木	5	8	15	14	15	18	28	13	22	15	14	14	182

曇天日數

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
件	15	12	11	19	10	6	19	...
可加爾吉	19	14	12	9	9	7	7	6	10	5	7	15	120
部計賀和	21	14	8	10	9	7	7	4	13	6	10	11	120
內幡野谷原	17	11
戸八中郡井	17	9	12	11	5	5	4	...	15	9	14	13	...
田竹島市	8	4	3	4	1
津大巖甘海	30	13	7	8	9	9	1
日田	12	7	6	5	4	4	3	1	7	11	2	7	69
野川條瀨	11	6	6	7	9	8	9	5	12	6	4	9	92
美野田郷坂	18	11	9	7	9	5	4	1	9	4	10	10	97
泉友海道永	20	10	9	11	3	8	6	5	9	7	9	5	102
山野中
山野中	11	7	6	7	5	6	4	2	8	5	8	9	78
井山下國西	11	10	9	10	8	6	3	2	13	7	8	6	88
井山下國西	11	9	5	8	1	3	3	2	10	3	8	3	66
舍坂總朝生	7	5	5	2	3	1	1	2	2	3	7	7	45
舍坂總朝生	14	17	12	12	10	7	13	7	10	3	9	8	107
舍坂總朝生	24	17	12	12	10	11	8	4	13	9	10	9	139
舍坂總朝生	14	9	6	3	8	4	6	1	4	3	6	9	73
舍坂總朝生	5	10	8	7	11	10	15	1	13	6	5	2	93
田市次和原	17	8	6	5	11	6	7	1
田市次和原
田市次和原	27	16	20	12	15	13	15	12	19	14	15	20	198
田市次和原	23	17	12	11	9	14	13	2	16	11	15	19	162
田市次和原	15	5	5	8	9	4	2	3	6	4	3	4	68
城録山田野	20	8	10	11	10	6	5	...	6	5	7	8	98
城録山田野	18	12	7	13	13	6	6	2	1	8	5	3	106
城録山田野	19	16	10	8	14	13	10	3	11	5	14	15	138
城録山田野	11	8	11	10	6	9	10	1	10	8	5	9	98
桑釋城木	6	5	7	6	6	2	1	...	3	3	1	1	41
桑釋城木	15	9	9	10	7	7	11	2	10	10	10	12	112
桑釋城木	17	13	6	13	10	12	4	3	10	7	8	11	114
桑釋城木	18	14	10	9	15	5	4	9	16	8	10	15	133
桑釋城木	6	5	2	5	5	10	6	...
井山下國西	17	6	7	6	10	5	5	2	6	3	2	9	...
井山下國西	17	12	13	11
井山下國西	9	13	14	5	7	10	3	6	11	3	10	8	99
井山下國西	17	14	11	16	13	11	9	8	12	9	8	14	142
井山下國西	19	16	12	11	8	11	7	2	12	6
舍坂總朝生	18	7	8	9	4	11	10	10	10	...
舍坂總朝生	19	13	13	4	11
舍坂總朝生	23	14	16	3	11	5	5	6	12	...	9	18	122
舍坂總朝生	25	8	9	5	14	9	7	...	12	13	16	9	127
舍坂總朝生	27	7	8	8	11	12	6	5	9	7	6	16	122
田市次和原	19	7	5	12	10	9	7	2	8	4	8	12	103
田市次和原	23	13	13	10	12	11	16	4	15	9	10	14	150
田市次和原	16	13	11	11	11	12	6	4	13	13	21	16	147
田市次和原	13	8	5	1	2	4	33
田市次和原	15	12	12	6	9	10	3	2	8	7	5	6	95
城録山田野	7	7	15	11	2	4	9	...
城録山田野	16	6	11	2	5	7	10	7	7	9	15	11	106
城録山田野	16	11	16	11	9	8	7	5	...	8	14	4	...
城録山田野	15	9	7	1	9	11	3	1	7	9	6	16	94
城録山田野	16	11	14	4	7	7
桑釋城木	13	10	7	6	17	10	16
桑釋城木	7	9	5	12	7	11	3	8	6	6	11	18	130
桑釋城木	3	7	...	2	7	...
桑釋城木	16	11	11	10	11	9	8	3	15	7	13	13	127

最多風日向日向

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
件部計賀和	N	N	N
可加筒吉	N	N	N	SE.W	E	S	SE	S	N	N.W.NW	N	N	...
戸八中都井	N	N	N	N	N	SW	SE	N	N	...
津大殿甘海	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
日田	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
上吉四	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
乃戸神本高	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
小久忠尾松	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
福御府	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
久甲上小川	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
吉三田大壬	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
吉十三比庄	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
西八上君布	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...
生帝東油	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	...

地震回数

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
件部計賀和	2	...	1	3
戸八中都井	3	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	15
津大殿甘海	1	...	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1	10
日田	1	...	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1	10
上吉四	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
乃戸神本高	3	...	1	1	1	1	1	1	1	1	13
小久忠尾松	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
福御府	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
久甲上小川	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
吉三田大壬	2	1	1	1	1	1	1	1	1	10
吉十三比庄	5	4	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	13
西八上君布	5	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
生帝東油	1	1	1	1	1	1	1	1	10

地震總覽

番 號	種 目 地 名	月	日	發 震 時	震 時 間	強 さ	方 向	性 質	記 事
	中黒瀨	ク	ク	時分秒 3 00	分秒 —	微	—	—	—
	忠海	ク	ク	3 20	—	微弱	—	—	—
	海田市	ク	ク	3 00	—	微	—	地平動	—
	伴	ク	ク	2 00	—	微	—	—	—
10	伴	I	13	4 30	—	微	—	—	—
11	布野	I	15	7 29	01	微	—	—	—
	上高野山	ク	ク	7 03	—	弱	—	—	—
	君田	ク	ク	7 50	約03	弱	S	—	地鳴あり
	比和	ク	ク	8頃	—	微	—	—	—
12	井原	I	16	19 30	—	微	—	—	—
13	八幡	I	20	4 50	01 00	弱	—	—	地鳴あり
14	八幡	I	20	17 00	—	—	—	—	地鳴あり
15	福山	I	24	11 45	約01	微	E	水平動	—
16	高野山	I	28	3 30	約02 00	—	—	—	—
17	十日市	I	28	11 33	—	微(弱き方)	—	—	—
18	比和	II	3	7 45.1	01	稍強	N-S	急激上下動	—
19	布野	II	9	0 18	03	弱	S-N	水平動	地鳴あり
	壬生	ク	ク	—	—	微	—	—	—
20	奥	III	3	15 53 34	—	微	—	—	—
	本郷	ク	ク	15 45	—	稍強	SE	—	—
	殿島	ク	ク	16前	—	—	—	—	—
	津田	ク	ク	15 56	約10	弱	N-S	急激水平動	同時聲あり
	中黒瀨	ク	ク	15 48	約05	弱	N-S	急激水平動	地鳴あり
21	比和	III	7	8 05	0 02弱	微	—	—	—
	本郷	ク	ク	8 00	—	—	N	—	—
22	頼	III	8	23 05	08	弱	—	水平動	—
23	頼	III	9	1 50	12	弱	NW	水平動	—
24	中黒瀨	III	10	10 19	—	—	N-S	—	—
25	十日市	III	13	22 16	—	微(弱き方)	NE--SW	緩	水平動著し戸障子僅に震動す
	八幡	ク	ク	21 45	04	弱	S	緩慢	—

地震總覽

番 號	種 目 地 名	月	日	發 震 時	震 時 間	強 さ	方 向	性 質	記 事
	三 次	ク	ク	時分秒 22 15	分秒 10	強	—	急激	上下動地鳴と同時に地震
	比 和	ク	ク	22 20	12	弱	SE-NW	—	—
	小 國	ク	ク	22 05	15	強	SW--NE	水平動	—
	伴	ク	ク	22 過	1 00	弱	E	緩	水平動
	上高野山	ク	ク	22 30	—	—	—	—	—
	都 谷	ク	ク	21 45.10	15	弱	SE	水平動	急激
	井 原	ク	ク	22 00	08	微	—	—	—
	吉 川	ク	ク	22 21	約05	—	S-N	—	—
26	上高野山	III	15	23 00	—	微	—	—	—
27	同	III	15	24 00	—	—	—	—	—
28	海田市	III	17	—	—	微	—	—	—
29	本郷	III	24	2頃	—	—	—	—	—
30	十日市	III	29	0 20	—	微(弱き方)	—	緩	微弱なる地鳴に引續き震動す
31	府 中	IV	5	0 05	—	弱	—	—	—
	吉 川	ク	ク	0 02	—	—	—	—	—
32	中 野	IV	15	21 20頃	約20	弱	W	緩 慢	—
33	中 野	IV	30	21 30頃	約20	弱	W	緩 慢	—
34	松 永	V	18	4頃	—	—	—	—	—
35	上高野山	V	18	18	—	—	—	—	—
36	廣 島	V	19	9 59.26	2 49	弱	N75°4E -S74°5W	稍 急	地鳴は遠方にて貨物自動車や電 車道を通過する が如き音なり 主要動の最初に 於て恰も高所よ り低所に墜落す るが如き衝動を 感す
	十日市	ク	ク	9 26	0 19	弱(中等位)	—	急	餘急激ならず地 震前聲を聞き たり
	布 野	ク	ク	10 頃	10	弱	—	水平動	—
	西 條	ク	ク	9 56	20	弱	E	水平動	—
	本郷	ク	ク	10 05	02	強	N	—	—
	神 田	ク	ク	10 00	—	—	—	—	—
	大 朝	ク	ク	10 08	50	—	—	—	—
	高 坂	ク	ク	10 00	1 00	—	—	—	—
	津 田	ク	ク	9 58	10	弱	—	—	地鳴を伴ふ
	尾 道	ク	ク	10 09	25	強	SN	水平動	—
	殿 島	ク	ク	10 02	—	—	—	—	—

地震總覽

番 號	種目 地名	月	日	發震時 時分秒	震動 時間 分秒	強 さ	方 向	性 質	記 事
	上下	ク	ク	10 0.10	10	弱	N	水平動	地震の前係に聲響を聞けり
	府中	ク	ク	10 10	約03	稍強	S-N	上下動 ナ感タリ	最初は自動車の疾走し來るが如き音を北西方に聞く
	中黒瀬	ク	ク	10 19	約20	弱	NW	稍急激 上下動	地震と同時に弱き聲響を聞く
	井原	ク	ク	10 00	—	弱	—	水平動	—
	油木	ク	ク	9 55.30	約30	微	SW-NE	緩慢 水平動	—
	海田市	ク	ク	10 02	—	微	—	上下動	—
	田穂	ク	ク	10 03	—	強	W-E	急激 水平動	多少の音を聞く
	吉川	ク	ク	9 53	—	—	EW	地平動	—
	廿日市	ク	ク	9 56	—	—	—	—	—
	可部	ク	ク	10 00	—	—	EW	—	—
	忠海	ク	ク	10 02	—	稍強	—	—	—
	川西	ク	ク	10 00	—	弱	—	—	—
	生桑	ク	ク	10 02.06	13	弱	S	緩慢	同時に音響あり
	三次	ク	ク	9 55	約10	強	SE	急激 水平動	—
	加計	ク	ク	10 05	20	強	—	急激 上下動	—
	都谷	ク	ク	9 45.02	30	稍強	SW	緩慢	—
	庄原	ク	ク	9 58	03	弱	ES-N	水平動	地震前に於て聲響を聞く
	戸河内	ク	ク	10 00	30	強	W-E	上下動	—
	吉田	ク	ク	10 02	15	稍強	E	地平動	—
	中野	ク	ク	10 45頃	約20	強	W	緩慢	—
	八幡	ク	ク	9 45	2 00	強	WS-NE	急激	—
	壬生	ク	ク	9 55	05	強	W	水平動	—
	小國	ク	ク	9 55	—	—	—	—	—
37	中野	VI	7	5 40頃	—	—	—	—	—
38	吳	VI	8	10 16 04	—	微	—	—	—
39	中野	VI	22	9 16頃	約 10	弱	W	緩慢	聲響あり
	井原	ク	ク	8 45	05	弱	N	水平動	同時に音響を聞く
40	吳	VI	27	20 56 44	—	微	—	—	—
41	小國	VI	28	5 20	—	—	—	—	—
42	上高野山	VII	4	11 05	02	—	SE-NW	—	—

地震總覽

番 號	種目 地名	月	日	發震時 時分秒	震動 時間 分秒	強 さ	方 向	性 質	記 事
	本郷	VII	4	10 30頃	分 秒	—	N	—	—
	三次	ク	ク	10 42	06	弱	SE	緩慢 水平動	同時に地鳴あり
	小國	ク	ク	10 25	—	—	—	—	—
	庄原	ク	ク	10 45	01	稍強	WS-NE	水平動	—
43	高野山	VII	5	12 35	01	微	SW-NW	水平動	聲響あり
44	廣島	VII	12	13 31 20.7	2 32.9	微	—	稍急	—
	吳	ク	ク	13 31 30	—	微	—	—	—
45	中野	VIII	3	7 過	10	弱	—	緩慢	—
46	吳	VIII	7	6 52 11	—	微	—	—	—
47	廣島	VIII	9	6 07 10	2 15	微	—	緩	—
	吳	ク	ク	6 06 39	—	弱	—	—	—
	中黒瀬	ク	ク	5 59	15	弱	E-W	水平動 急激	初め四五秒間ドンドンの音響ありて震動す急激なる水平動の如く推測さる
	加計	ク	ク	6 00	50	弱	N	—	—
	都谷	ク	ク	5 45.15	21	微	NE	水平動	—
	津田	ク	ク	6 00	20	—	—	—	同時に聲響あり
	十日市	ク	ク	6 06	21	弱(弱き方)	—	緩	家屋の動揺すること緩慢なること共弱き方
	中野	ク	ク	6 前	10	弱	—	水平動	—
	久友	ク	ク	6 02	—	—	SW	—	—
	西條	ク	ク	6 20	—	—	—	—	—
	吉川	ク	ク	6 08	—	—	S-N	地平動	—
	本郷	ク	ク	6 00	—	—	W	—	—
	高坂	ク	ク	6 00	約1 00	弱	—	—	—
	可部	ク	ク	6 30	—	—	E-S	—	—
	壬生	ク	ク	6 30	—	微	—	—	—
48	油木	VIII	14	21 00	03	弱	W-E	急激 水平動	—
49	廣島	VIII	19	14 32.40	1 53	微	—	稍急	—
	本郷	ク	ク	14 40	(5)	稍強	NE	緩慢 上下動	—
	小國	ク	ク	14 25	10	強	S-NW	上下動	—
	中野	ク	ク	14 40	約20	強	E	水平動	聲響あり
	中黒瀬	ク	ク	14 02.5	0 20	微	NE-SW	緩慢 水平動	地震前約十秒間の地鳴ありたり

式費一測候所管内各課品源

測候所名	所在地	觀測主任者
三吉	三吉郡	秀覺二 豪惠勝 研究所七寅悅 丈 大強一
次會	次會町	田羽森 藤織田 林本役部川本 野川林
良日	良日町	淺出近 伊錦石 森原郡田白塚 宮中吉小
三君布十川庄上	三君布十川庄上	
比八西東帝	比八西東帝	
坂野市西原山	坂野市西原山	
和餘城城釋	和餘城城釋	

大正十四年一月十日印刷
大正十四年一月十三日發行

廣島縣廣島測候所

印刷者 花 咲 信 一
廣島市千田町二丁目九〇八番地

印刷所 花 咲 印 刷 所
廣島市千田町二丁目九〇八番地

14.6-

142

終